

令和2年度 公益社団法人生駒市シルバー人材センター事業計画

はじめに

当センターは平成5年10月に社団法人として設立され、受託事業収益は右肩上がりを受け、直近においては平均して2億5千万円を計上して安定的な運営を行ってまいりました。しかしながら昨年度の決算においては2億3千万円となり、約2千万円の減収となる結果になりましたが、経費削減や事務処理方法の見直し及び電算化等により、最終の経常増減額は黒字にすることができました。

この受託事業収益の減少要因としては、会員数が年々減少していることが当たると考えられます。会員数は875名をピークに現在まで減少を続けており、今年度末は約630名前後になると予想され、今後対策を打たなければ500名程度まで減少するものと考えられます。社会全体の高齢化が進む中、シルバー人材センターへ入会とせず、会員数が減少していることは、生駒市のみならず全国的な傾向ではあるものの、このまま看過できるものではなく具体的な対策を講じていく必要があります。以上のセンターを取り巻く状況を踏まえ、3つの基本方針を掲げて取り組んで参ります。

1、基本方針

- (1) 就業開拓と就業機会の拡大
- (2) 会員の増強
- (3) 安全対策

2、具体的施策

- (1) 就業開拓と就業機会の拡大

これまでシルバー人材センター主たる事業であった屋外作業(剪定・草刈り・草抜き等)の就業を希望される会員は年々少なくなってきております。その反面、一般家庭からの発注自体は逆に増えつつあり、こうしたミスマッチを解消する必要があります。また同時に既存の未就業会員や新規入会される会員が希望する業種の新たな開拓が不可欠であると考えます。ただ、請負事業だけでは就業開拓に限界もあり、新たな就業先として派遣事業に関しても広げていくことが必要です。そのために事務局としては職員の業務分担を見直し就業開拓の専任職員を配置し、積極的な取り組みを行って参ります。

これまでのセンターの事業はすべて単独完結型でしたが、令和2年度からスタートするエリアサポート事業は、地域と密着した形での事業としています。市内関係各所や自治会、民生児童委員と事務局が連携して進めて参ります。このような事業の進め方

は、当センターとして初めて試みであり、「地域の困りごとは地域に居る会員が助ける」これはシルバー人材センターの設立趣旨であり、設立の初心に帰る地域支援、社会貢献事業とし、またシルバー人材センターの普及啓発事業の両面で進めて参りたいと考えております。

これまでの当センターは「やまびこ」による就業情報の発信を行っており、このような紙による旧態依然の方法を取っている他のシルバー人材センターは少なく、ホームページ等を利用したタイムリーな就業情報やその他の情報発信を行っているセンターが多くなっています。スマートフォンやメールを利用した世の中の流れに応じた方法を取り入れていくことが当センターに求められていると感じており、4月以降は当センターもIT化を推し進めて参ります。

(2) 会員の増強

企業の雇用情勢が大きく変化し65歳まで企業内で継続雇用されるようになり、会員数は年々減少し、入会年齢も徐々に上がっています。また国からは70歳まで働けるような動きも出てきており、このような中で会員数を維持または増やしていくには、男性会員はもとより、やはり女性会員をターゲットにしていくことが必要となってきています。

しかしながら、現在のシルバー人材センターの仕事内容では女性が活躍できるものが少ないのが現状です。仕事以外にも女性ならではの視点による入会促進策や女性が入会したいと思えるような会員同士の活動を行っているセンターへの多彩な変化が求められています。またこれまでの入会促進策のほかに、公共施設において入会説明会を定期的の実施して多くの方への入会機会を増やすことも検討しております。

(3) 安全対策

シルバー人材センター事業の最重点項目は「安全就業の達成」です。令和元年度も安全対策を実施するものの、事故件数の減少は見られませんでした。令和2年度も引き続き「作業別安全就業基準」を基に夏場の熱中症対策や安全パトロール、職群別講習会、また「安全のしおり」の周知展開を行い、安全就業の徹底を行います。加えて、交通法規や安全運転などの講習会や健康に関する講習会など会員を取り巻く様々な「安全」を対象に企画立案し実施して参りたいと考えております。